

## 渋滞、市長が陳謝

2015年5月29日10時18分

▽四条通歩道拡張 今後も対策

京都市議会5月定例会では、市が歩行者と公共交通を優先する街づくりを掲げて歩道拡張工事を行っている四条通での渋滞について議論が交わされた。

最大会派の自民は議会最終日の28日、門川大作市長に渋滞対策を提言する文書を渡した。バス停で係員が外国人旅行客の乗降を手伝うなどして渋滞の一因となっているバスの停車時間を短縮するなどの内容。井上与一郎団長は「四条通の整備の趣旨、理念は多くの人が賛同している。賛同を無駄にしないためにも積極的な取り組みを注視したい」と述べた。

代表質問でも「渋滞への取り組みが不十分だった」（自民）、「市中心部に車を呼び込まない交通体系が確立しないまま拙速に進めたのが原因だ」（共産）、「バスの追い越しができるようにすべきだ」（京都）などの指摘が相次いだ。

門川市長は「（四条通整備について）府外での啓発が不十分で府外の車が多く流入した。想定を超える交通の集中が起きて市民に迷惑と心配をかけ、心よりおわびする」と陳謝した。

市によると、4月以降は迂回（うかい）路への誘導を強化するなどして渋滞はほぼ平年並みに落ち着き、日曜日だった5月24日には市営バスの遅れが最大3分で収まったという。市は今後、四条通周辺の車の流れを調査した上、信号の調節を府警と協議するなど、四条通にマイカーを入れない対策を進める。

5月定例会ではこのほか、保育所の整備費などを含む総額約12億円の補正予算案など103議案を可決。共産と民主・都みらいがそれぞれ提案した国の安全保障法制についての意見書案など4議案を否決した。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.